チンパンジー・ピーコの 57 年と、ピーコから学んだこと

○伊原茂男
（野毛山動物園）

チンパンジー（*Pan troglodytes verus*）のピーコは、1966 年 12 月 8 日に推定 1 歳でアフリカから野毛山動物園に来園した。当時の日本の動物園は「娯楽の場」という色合いが強く、ピーコも園内イベントや園外 PR に登場するなどして市民を楽しませてくれていた。やがて動物園の社会的役割の中でも「種の保存」の比重が大きくなると、当園でも絶滅危惧種であるチンパンジーの繁殖に本格的に取り組むことになった。その過程でピーコは、面倒見の良い性格を存分に発揮し、新規個体を導入しての群れづくりや誕生したコドモたちの成長に大きく貢献してくれた。

しかしそんなピーコも、新米の担当飼育員に対しては非常に厳しい一面があり、私も担当になった当初は様々な嫌がらせや、時には危険事例を経験し、身体に自由に触れることを許容してくれるまでに 3 年の月日を要した。このピーコとの関係づくりに悪戦苦闘した 3 年間で、初めのうちはチンパンジーから嫌がらせを受けても決して高圧的にならず力で抑え込もうとしないことや、過度に怖がらず常に平常心で接すること、良い事も悪い事も含めてチンパンジーと過ごす時間をとにかく楽しむこと、しかし決して油断してはいけないことなど、チンパンジー飼育を行う上での心構えとして重要な多くのことを学んだ。

2022 年末頃よりピーコに採食量及び体重の減少が徐々に見られ始めたのだが、年相応との判断でこれまで通りの飼育管理を続けていた。しかし 2023 年末に通常与えていた餌を一切受け付けなくなり、2024 年 1 月 23 日に推定 58 歳で老衰により死亡した。解剖の結果からは、心臓や腎臓がかなり悪くなっていたことが判明した。ピーコの晩年に関わった経験からは、油断・思い込みは禁物であることや早めに対処することの重要性、日頃からハズバンダリートレーニングを行い各種検査を通して疾病を予防する大切さを改めて学んだ。

これらピーコから学んだ多くのことは、今後のチンパンジーの飼育管理や後輩職員の指導に生かしていきたい。